

令和4年度

新野小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人ひとりの子どもを見取り、個にあった支援の工夫
- 言語活動や体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。

学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b>	<b>委員</b>
研修主任 村上実紀子	校長:岸本信和 教頭:大守衣代 教務主任:尾川弘美 株木恭祐 宮本敏美 久米智宏 佐藤夏海 新田将人 岩佐航太

校長

岸本 信和

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ることが難しい。 ●語彙が乏しく、授業や学校生活の中で分かりやすく状況を説明したり、他の人の話を理解することが難しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が定着し、他の学習の場面で活用することができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友だちの話聞いて理解することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・朝の活動(花まるタイム)や家庭学習などを利用し、読み書き計算等の反復学習に取り組む時間を確保する。また、読解力の基礎となる読書習慣を身につけさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○考えたことや感想などを、作文や日記にしっかり書き表すことができる。 ●表現したいことを適切な言葉で伝えることが苦手である。 ●間違いを恐れて発表をしない児童が多い。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・生活において、相手に伝えたいことを適切な言葉を用いて分かりやすく伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・実態に応じたためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。(テーマ日記・行事作文・学級会・学年発表・学習発表会)			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる児童が多い。 ●不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的にとりくむことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・児童の主体的な体験や活動(タブレットの活用など)を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・授業のめあてを提示し、記述させる。 ・家庭との協力を密にし、家庭学習の習慣化や自主学習の定着化を図る。			

令和4年度 学力向上ロードマップ



